

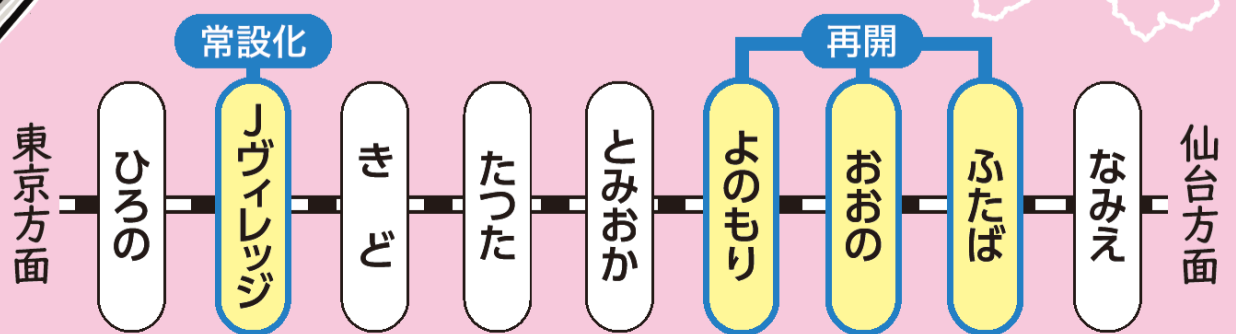
# あなたとつながる、ふたば。

## 福島県双葉郡8町村



2020年3月  
JR常磐線  
全線再開

2020年3月、JR常磐線がいよいよ全線再開します。  
東京から、仙台から、あなたのまちから、  
「双葉郡のいま」を感じる旅に出てみませんか？





# あなたとつながる、ふたば。～イラスト解説～

## ① 広野町 浅見川溪谷

阿武隈山地から広野町を横断し太平洋に注ぐ浅見川の上流は、奇岩怪岩と豊かな緑に包まれた溪谷です。堀切地内には勢いのある水量で見る者を圧倒する大滝があり、その手前に奉られた大滝神社は女神さまで、河口付近の鹿嶋神社の男神さまと夫婦の神様と言われています。

## ② 広野町 ニツ沼総合公園

高台にあるオランダ型風車が目印の広大な芝生広場です。ふわふわドームなどの遊具類や、バーベキュー広場、農産物直売所、国際公認のパークゴルフ場があり、子どもからお年寄りまで様々な世代が楽しむことができます。正門に隣接するトロピカルフルーツミュージアムの温室では、町の新たな特産品であるバナナ「綺麗」の栽培が行われています。

## ③ 広野町 サマーフェスティバル

8月上旬に開催されるお祭り、地元物産品の販売や盆踊り、様々なステージイベントが行われます。クライマックスは音楽に合わせて夏の夜空を彩る打ち上げ花火です。広野町ではこのほかにも、新たなスポーツを紹介する「広野スタイル」や童謡を軸にした「ひろの童謡まつり」など、個性的なイベントが開催されています。

## ④ 檜葉町・広野町 Jヴィレッジ

東京ドーム約10個分の広大な敷地に、スタジアムを含め天然芝ピッチ8面、人工芝ピッチ2面、全天候型練習場、ホテルやフィットネスジムなどを備えた国内初のサッカーナショナルトレーニングセンターです。震災以降は福島第一原子力発電所の廃炉作業の拠点となっていました。2019年4月に全面再開し、復興のシンボルとして更なる利活用が期待されています。

## ⑤ 檜葉町 道の駅ならば

国道6号線のJヴィレッジ近くに県内7番目の道の駅としてオープンし、天然温泉の温浴施設、レストランや物産館を備えた観光交流の拠点です。レストランでは、元・サッカー日本代表監督のトルシエ氏ゆかりの「マミーすいとん」を食べることができます。今後は物産館も再開の予定です。また、敷地内には、ポケモンマンホール「ポケふた」が設置されています。

## ⑥ 檜葉町 天神岬スポーツ公園

太平洋に突き出す高台に立地する総合レクリエーション施設です。広々とした芝生の公園内には子ども達も楽しめる遊具が点在し、レンタサイクルやオートキャンプ場、日帰り温泉施設、宿泊施設を備え、家族連れで賑わっています。また、南の断崖上からは、津波被害からの復興が進む前原・山田浜地区を一望することができます。

## ⑦ 富岡町 夜の森の桜

約2kmに及ぶ桜並木が道路を覆うトンネルのように咲き誇り、「桜の名所」として知られています。原子力発電所事故により夜の森地区が帰還困難区域となり立入が制限されていましたが、2020年の夜ノ森駅周辺の避難指示解除で歩いて観賞できる範囲が800mまで延びました。満開となる4月上旬にはライトアップや「桜まつり」が行われます。

## ⑧ 富岡町 えびす講市

商売繁盛と五穀豊穡を願い、11月の事代主神社の祭礼に合わせて開催される秋市です。東日本大震災と原子力発電所事故の影響で中断していましたが、2017年に復活しました。ひょっとこ踊りなどの地元の芸能ステージや恒例の景品付き餅投げ大抽選会などで大いに盛り上がります。

## ⑨ 富岡町 麓山の火祭り

上手岡の杉内地区の麓山神社を舞台に毎年8月15日に行われる伝統行事です。夕闇の中、大きな松明を担いだ白禪姿の男達が「千燈(せんとう)、千燈」の掛声と共に火の粉をかぶりながら麓山の頂上を目指して駆け上がる勇ましいお祭り、県の重要無形民俗文化財に指定されています。

## ⑩ 川内村 いわなの郷

川内村の清らかな水で清流の魚である「いわな」を養殖しており、釣り堀で気軽にいわな釣りを楽しむことができます。釣り上げたいわなを塩焼きにするもよし、併設のレストランでいわなを使った様々な料理やそばを味わうもよし、コテージでの宿泊もでき、川内村の自然を満喫できる施設です。

## ⑪ 川内村 天山文庫

川内村の人々と豊かな自然を愛した詩人、故「草野心平」から寄贈された蔵書3,000冊を保管するために建設された文庫です。晩年の草野心平もしばしば滞在した趣のある茅葺き屋根の建物と四季の移ろいが美しい庭が特徴です。酒好きでも知られる草野心平にちなんで酒樽を利用した珍しい形の書庫も併設されています。

## ⑫ 川内村 <sup>へぶす</sup>平伏沼 モリアオガエル

モリアオガエルは、梅雨の時期に水辺の木の枝に登って泡に包まれた卵を産む珍しいカエルです。卵から孵ったオタマジャクシ達は次々に沼へと飛び込んでいきます。平伏山の山頂にある平伏沼は、モリアオガエルの繁殖地として国の天然記念物の指定を受けています。

## ⑬ 大熊町 いちご植物工場

震災前は梨やキウイなどのフルーツ栽培が盛んだった大熊町の新たな産業として、2019年から大川原地区でいちごの周年栽培が始まりました。ずらりと並んだ巨大な農業用ハウスでは、最新のシステムで栽培工程が管理され、まさに「植物工場」と呼ぶべき近代的な景観です。

## ⑭ 大熊町 坂下ダム

大川原川上流にある農業用ダムです。2019年の大川原地区復興拠点の避難指示解除までの間は町現地連絡事務所が置かれ、町職員OBの「じじい部隊」の活動拠点となっていました。春にはじじい部隊が手入れを続けてきた500本の桜が美しく咲き誇ります。ダム管理事務所でもダムカードがもらえます。

## ⑮ 双葉町 双葉町ダルマ市

江戸時代から続く双葉町の新春の恒例行事で、縁起物の「双葉ダルマ」の販売を始めとするたくさんの露店やステージ、勇壮なダルマ神輿など見どころ満載のお祭りです。震災後は町役場を置くいわき市で開催されていましたが、2021年は双葉町内の産業交流センター前で一年の運勢を占う巨大ダルマ引きが行われました。  
(※2021年のダルマ市の行事は新型コロナウイルス感染症の影響で中止されました。)

## ⑯ 双葉町 渋川の神楽

双葉町には神楽を舞う芸能保存団体が約10団体あり、ダルマ市の2日目に長塚地区の初發神社境内で各地区の神楽が一同に集まる奉納神楽大会が行われていました。震災後の全町避難で住民が散り散りとなり、各団体は活動の休止や縮小を余儀なくされていますが、渋川を始め、郡山、上羽鳥などの団体が伝統の復活と継承に取り組んでいます。

## ⑰ 浪江町 請戸漁港

震災前は県内でも屈指の漁港で、シラスやヒラメなど、沿岸の豊かな海の幸を水揚げしていました。津波で大きな被害を受けましたが、港の復旧工事とともに、魚の荷さばき施設や冷凍庫施設を備えた町の水産業共同利用施設も整備され、2020年春に待望の競りが再開しました。請戸漁港で水揚げされた新鮮な魚介類は、町内のスーパーや道の駅なみえで購入できます。

## ⑱ 浪江町 なみえ焼そば

およそ50年前に腹持ちと食べ応えを求める労働者のために考案されたといわれるなみえ焼そばは、通常の3倍もある極太中華麺にうまみたっぷり濃厚ソース、具材はシンプルに豚肉ともやしのみ。浪江町民がこよなく愛するソウルフードです。「B-1グランプリ」で優勝したことで、一躍全国的に有名になりました。

## ⑲ 浪江町 大堀相馬焼

大堀地区に伝わる「大堀相馬焼」は、器全体に広がる青ひびと熱が手に伝わりにくい二重焼き、躍動的な走り駒の絵柄が特徴の伝統工芸品です。震災以降、23軒あった窯元はすべて町外への避難を余儀なくされましたが、各地で窯を再建し、2021年春には道の駅なみえに体験工房がオープンするなど、大堀相馬焼の伝統を引き継いでいます。

## ⑳ 葛尾村 葛尾大尽屋敷跡

江戸時代に生糸や製鉄業で莫大な富を築き、「葛尾大尽」と呼ばれた豪商・松本一族の邸宅跡で、広さ2ha余りの敷地には48棟もの蔵、近江八景を模した池や能舞台などがありました。明治時代以降の火災で建物は焼失してしまいましたが、現在は公園として公開され、石垣や庭園が往時の栄華を物語っています。

## ㉑ 葛尾村 三匹獅子舞

江戸時代の元禄年間に始まったといわれ、地域の無病息災を祈り日山神社の例大祭などで奉納されてきました。担い手の減少のため、現在では本来は子どもが務める舞子に成人を交えるなどして存続が図られています。「庭入り」から「納め舞」まで12の舞があり、雄獅子2匹と雌獅子に、岡崎と呼ばれる道化が絡みます。

## ㉒ 葛尾村 ツール・ド・かつらお

周囲を里山に囲まれた葛尾村で2017年から開催されている自転車の公道レースです。この大会を機に、県内各地を転戦する「ツール・ド・ふくしま」が実現し、現在はそのステージの1つに位置付けられています。一周28kmという全国有数の距離とアップダウンがコースの魅力で、開催中の2日間は普段は静かな村が大いに盛り上がります。

双葉郡内には、この他にも魅力的な観光施設や景勝地、お祭り、イベント、ご当地グルメが盛りだくさんです！  
あなたのお気に入りを探しに来てみませんか？